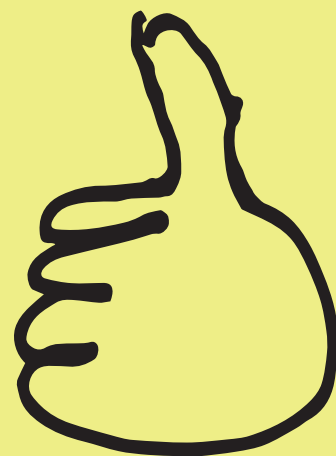
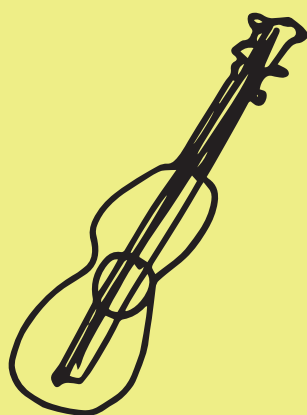


 **attitude**
is everything's



D **i** **y**
A **c** **c** **e** **s** **s**



G **U** **i** **D** **e**



より開かれたギグやツアーにするための
バンドやプロモーター用のガイドブック

皆さん、こんにちは

全てのファンにライブを見てもらいたいと思いますか？

新しい客層を開拓したいと思っていますか？

会場と一緒にギグを企画していますか？

ライブをさらにインクルーシブ(誰でも参加できるように)にしたいと思いますか？

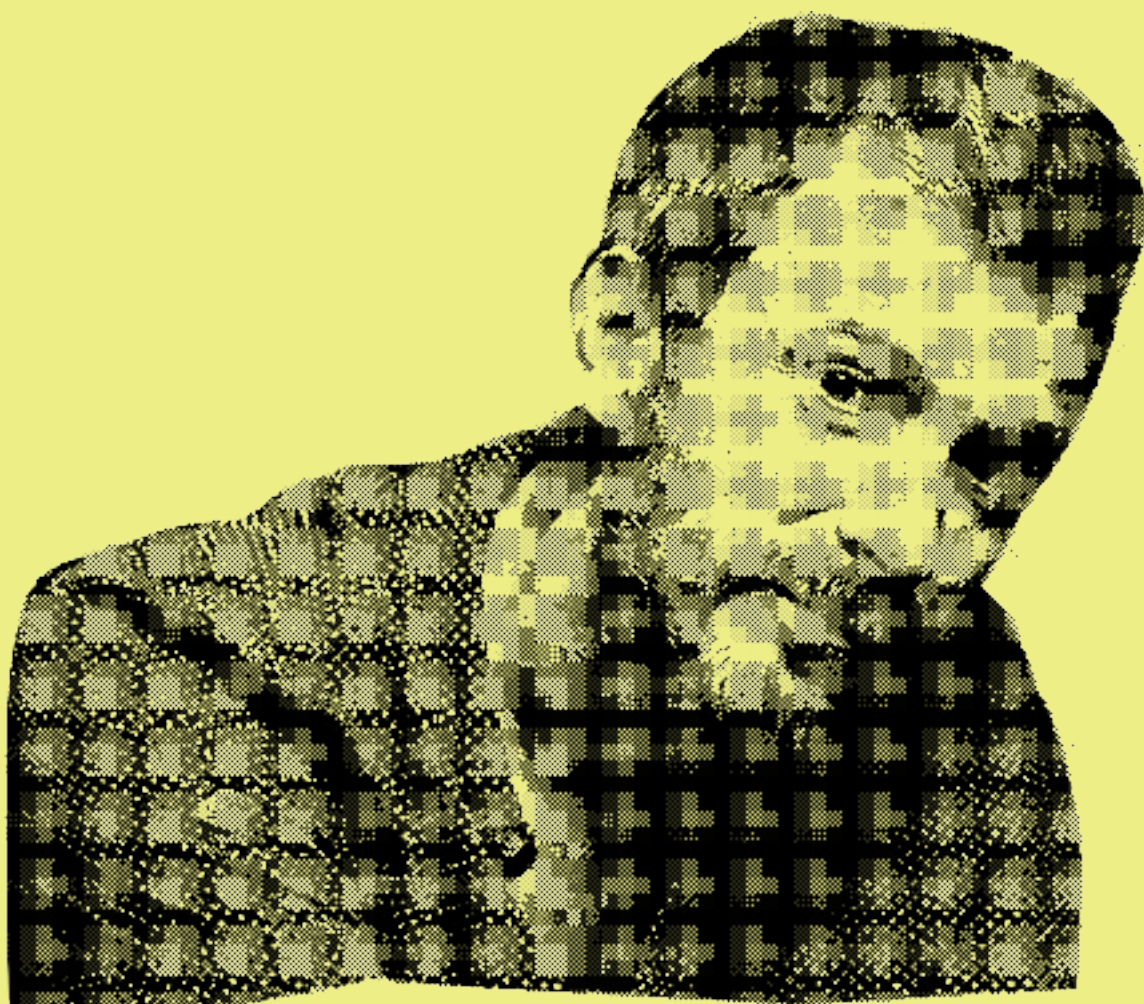
今までそんなこと考えたことないけど、試してみたいと思いますか？

でも間違っただけをしたら嫌だなあ、と気になりますか？



一つでも
イエスが
あったら
このガイド
ブックを
読もう！

“このガイドは、障害を持つ観客やアーティストと繋がるために必要な情報が満載。バンドやプロモーター全員にとって必読のガイドブックです。”



Rob Maddison, Revenge of Calculon
ロブ・マディソン(リベンジ・オブ・カルキュロン)

想像してみてください、
大好きなバンドを見るのを
諦めなければならない理由を

コンサート中に座れる椅子がない

トイレに行けるかどうか分からなくて心配

付添い人用のチケットがもらえない

バリアフリーに関する情報がないので不安

仮設スロープが必要な段差がいくつかある

必要な医療器具・医薬品を持ち込むことが
できない

行列に長時間も立ったまま並ぶのが苦痛

一番後ろの座席でステージがよく見えない
のは、もうコリゴリ

これらはろう者や障害者の人達がギグに行きたいと思う時にぶつかる壁の一例。でもアーティストやバンド、プロモーターの皆様にこの壁(バリア)を取り除くためにできることがあります。是非、キャンペーンに賛同してください！



Hannah McKearnen
ハンナ・マキアネン
(音楽ファン&ブロガー)

“多くの会場はわざと私たちをのけ者に行っているのではなく、正しい知識と技術がないだけ。だからバンドやプロモーターにファンが遭遇する障壁(バリア)を知ってもらうことがとても大切。そうすれば、会場と協力して問題を解決してもらえるわ。”

ATTITUDE IS EVERYTHING

私たちは、2000年
以来イギリスのライ
ブ音楽業界を支援
している団体です。

イギリス国内にある多数のライ
ブハウスやコンサート・ホール、
音楽フェスティバルの主催・運
営者たちと協力しながら、ろう者
や障害者の人達がより参加し
やすくなるための支援を行って
います。

私たちは障害者主導型のチャリ
ティ団体です。数百人のろう者
や障害者が覆面調査員(ミステ
リーショッパー)となって、ギグ
や野外イベントでの経験を集め
ています。

会場やフェスティバルの規模に
関係なく、私たちが提唱するベ
スト・プラクティス(最善の実践
事例)を実践するように勧めて、
出来るだけインクルーシブ(誰
でも参加できる)な会場になる
ための支援をしています。

実際に私たち自身も、これまで
に数多くのバリアフリー・ギグや
コンサートを草の根レベルの小
さなライブハウス等で企画・実
施してきた経験があるので、皆
さんのお手伝いができると思っ
ています。

このガイドブックでは、私たちの
経験とアイデアを皆さんと分
かち合います。





私たちについて

ろう者や障害者に含まれる人

車椅子の利用者

身体障害がある人

視覚障害がある人

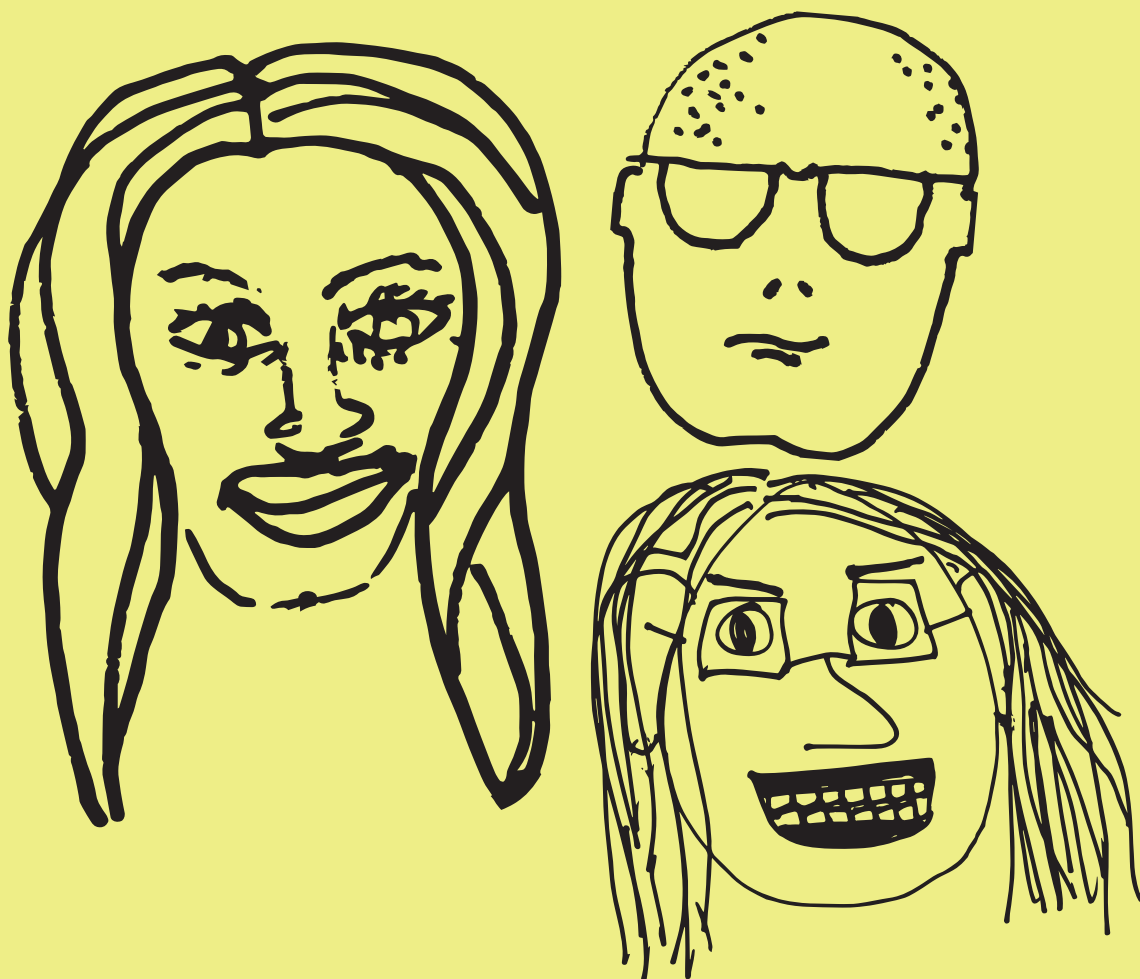
聴覚障害がある人

手話を使うろう者

学習障害がある人

メンタルヘルス・精神障害がある人

内部障害や慢性の病気を持つ人



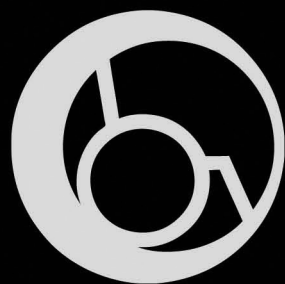
私たちの仲間

お金を払って友達と一緒にギグに行きたいと思っているファン

地元の他のバンド等と一緒にイベントで演奏したいと思っているアーティスト

自らライブを企画して地元の小さなライブハウスを応援したいと思っているプロモーター

ギグについて書きたいと思っているブロガーやジャーナリスト



attitude
is everything











**ACCESS
STARTS
ONLINE**

アクセスはオンラインで始まる

単発のギグで演奏するときに行える5つのこと

1. 障害者用のバリアフリー・アクセス情報がギグを行う会場のウェブサイトに掲載されているかチェックする。
2. 私たちのガイドブック『バリアフリーはオンラインから』を参考にして、ファンのために会場のウェブサイトを更新するよう勧める。
3. 自分自身のホームページやイベントのウェブサイトに、ギグ会場のバリアフリー・アクセス状況について掲載する。
 - ・ 使用可能な多目的トイレがあるか？
 - ・ ステージ・エリアまでに段差なしで行くことができるか？
 - ・ 付添い人のために無料チケットを提供しているか？
4. 付添い人用チケットについてギグのフライヤーに何も書かれていない場合は、プロモーターに無料チケットを用意してもらえるか聞いてみる。多くのバンドやプロモーターは専用招待リストを使って、直接連絡を取ってもらってチケットの依頼を受け付けている。
5. 座った状態でもステージが見える座席を希望する観客がいる場合の対応について、プロモーターに確認する。

自分自身でギグを企画する場合にできる10のこと

<p>1. チケット</p>	<p>6. 字幕</p>
<p> 付添い人用のチケットを無料で提供する。</p>	<p> モニター・スクリーンやプロジェクター、ノートパソコンを使って字幕を用意する。</p>
<p>2. バリアフリー情報</p>	<p>7. 多目的(障害者対応)トイレ</p>
<p> 事前にバリアフリー・アクセス情報をウェブサイトに掲載する。</p>	<p> 会場に多目的トイレがある場合は、使用可能な状態かどうか会場に確認する。</p>
<p>3. リクエスト</p>	<p>8. 静かな部屋</p>
<p> 何か特定のリクエストや要望がある場合は、直接連絡するよう案内する</p>	<p> スペース的に余裕がある場合は、「静かな部屋」を用意する。</p>
<p>4. 観覧用の優先エリア</p>	<p>9. ハラスメント</p>
<p> バリアフリーで着席可能な観覧用の優先エリアを設置する。</p>	<p> 嫌がらせ(ハラスメント)行為があった場合、どんなものであれ直ぐに通報するように伝える。</p>
<p>5. ストロボ照明</p>	<p>10. 会場のバー</p>
<p> ストロボ照明の使用を禁止し、それを観客にも伝える。</p>	<p> バーのカウンターが高すぎて届かない人でも飲み物が注文できるよう、会場側と話し合っておく。</p>









“自分が演奏している時も他のバンドを観ている時も、僕にとって歌詞は非常に大切だ。僕たちが歌っている曲の内容を観客に理解してもらって同じ体験を共有することが、僕たちのバンドにとって大事だから。”

「ザ・オークワード・サイレンシズ」のポール・ホーキンス(Paul Hawkins)が字幕提供について語った言葉。ロンドンのパブ「ザ・ガナーズ」のアウトサイダー・ポップナイトで自ら考案した字幕表示を用いることを始めたポールはこの分野の先駆者。





インクルーシブ(誰でも参加できる)ツアーを自分で企画・宣伝したいと思っているときに、全てのギグで用意すべきこと

チケット	歌詞の表示
 付添い人用のチケット	 字幕の提供
バリアフリー	多目的(障害者用)トイレ
 道路からステージまで段差なしで行ける状態	 多目的トイレ(使用可能な状態かどうか会場側に確認する)
観覧用の優先エリア	オンライン情報
 観覧エリア・バリアフリー座席	 会場のバリアフリーに関するオンライン情報とツアーに関するウェブページ
ストロボ方針	補助犬に関する方針
 ストロボ照明は無使用	 補助犬も歓迎

プロモーターが障害者 アーティストに出演を 依頼するときに役立つ 5つのヒント

- 1.** ステージまで段差なしで行ける会場を使う、あるいは会場内の別の場所に段差なしの演奏スペースを用意する。
- 2.** 多種多様なバンドを他にも出演を依頼して、多種多様な人たちに参加してもらう。
- 3.** 余裕を持ってサウンドチェックのための時間を確保する。多くの質問が出たり、通常とは異なるコミュニケーション手段を使ったやり取りがあるかもしれないことを予め心得ておく。
- 4.** バンド側からのバリアフリー要望事項について事前に打ち合わせをしておく。そしてバンド側の許可を得た上で、必要に応じて会場のスタッフに伝えておく。
- 5.** 自身のウェブサイトにはバリアフリーに関する声明文を掲載し、自分が企画する全てのギグでどのような対応が期待できるか宣伝しておく。

フライヤーをバリアフリーにするための5つのヒント

PRESENT THE:
IN-SIGHT WEEKEND
ACCESS AND DISABILITY IN DIY
TALKS! WORKSHOPS! GIGS!

FRIDAY 31 MARCH &
SATURDAY 1 APRIL 2017

At DIY SPACE FOR LONDON
96-108 Ormside Street, London SE15 1TF

Step-free access / Accessible toilets
Full access info:
diyspaceforlondon.org/access

The In-Sight Weekender is funded by PRS for Music Foundation and Arts Council England

Icons: 22 Icons, Kloege architecture, bmj|j|l|art, Gregor Erusnar & Patrick McDonnell from The Noun Project, Artwork by Heather Thompson, Design by Makina



1. 画像の上にテキスト文字を重ねないこと。
2. フォントサイズはできる限り大きなものを使う。
3. テキスト文字と背景とのコントラストを強くする。
4. 文字のフォントは装飾性がないゴシック体(サンセリフ)を使う。
5. 基本的なバリアフリー情報を含ませる(段差なし・多目的トイレ有り等)。



問合わせ用のメールアドレスを載せて、質問があればメール連絡してもらおう。

ステージまでに段差があるか？

「段差なし」とひとこと表示。段差がある場合は、それがどのような状況なのか説明する(例: 建物の2階でエレベーターは無し)。

座ったままステージが見える場所があるか？

着席したままでの鑑賞を希望する人への対応方法を説明する。

バリアフリーの多目的トイレがあるか？

「多目的トイレあり」と表示する。ない場合は「多目的トイレ無し。最寄りの障害者対応トイレはxxxにある」と書く。

付添い人用のチケットを頼めるか？

チケットを依頼する方法を説明する。

その他にも役立つようなバリアフリー情報があれば(例: ストロボ照明は使っていない)、イベントのウェブページに書き込む。

いつも演奏
している
会場がバリア
フリーで
なかったら？



レギュラーでライブを行っている会場には階段があったり、障害者対応のトイレがなかったりしても、他にできることはあります！

バリアフリーの障害者対応トイレがなかったら？

最寄りの多目的トイレがどこにあるか確認して、事前に観客に知らせておく。

会場への出入り口にいくつかの段差があったら？



会場側と相談して仮設スロープの設置を検討してもらおう。取り付けが安全にできる場合は、会場側の責任で行ってもらえるはず。

客席までに階段があったら？



会場内の別の場所にバリアフリーで出入り可能な部屋があるか聞いてみる。部屋がない場合には、会場には階段があること、階段が何段あるのか、手すりがあるのかについて、前もってオンラインで情報提供する。

階段の上り下りができても、ライブ鑑賞中は椅子に座る必要がある人もいるかもしれません。どの会場でも、障害者対応の座席を設けるようにする。



何事も知識があれば安心です!

ギグの取り組み #1



バリアフリーの着席観覧用優先エリア

バリアフリーの着席観覧用優先エリアとは？

会場内で座った状態でもステージを見ることができる指定の場所のこと。会場の規模によっても異なりますが、事前に設置可能な場合もあれば、要望があればその都度、椅子を用意することになる場合もあります。

なぜ必要なのか？

優先エリアは、車椅子の利用者や、人混みの中に長時間立っていることが難しい人に使われるかもしれません。さらに外見からは分からない障害を持つ人を含んだ大勢の人が、このようなエリアを必要としているかもしれません。

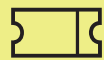
用意するもの

- ・ 座席・椅子
- ・ ステージが見える場所

実現させるには

- ・ 会場に常設の優先エリアがあるか確認する。
- ・ ない場合は、どこに設置するのが良いか会場側と相談する。
- ・ 事前に座席を用意することが困難なとき、万が一、椅子が必要な人が来た場合の対応方法を考えておく。
- ・ 座席を必要とする場合はどうすればいいのか、前もって分かるようにしておく。
- ・ 会場のスタッフ全員が、着席観覧席が必要な場合の対応方法をきちんと理解しているようにする。

ギグの取り組み #2



付添い人用チケット

付添い人用チケットとは？

既にチケットを購入した障害者がライブのコンサートに行くために付添い人が必要なとき、無料で提供される無料チケットのこと。

なぜ必要なのか？

付添い人が必要な理由は様々です。移動介助のため、他人とのコミュニケーションを取るため、適切な判断を下すため、医薬品の投与のため、トイレ介助のためなどの理由があります。

用意するもの

- ・ ギグを見に来る人が、簡単に付添い人用のチケットをリクエストできるような仕組み。

実現させるには

- ・ 付添い人用チケットの依頼があった場合は、ゲスト・招待リスト枠を活用する。
- ・ チケットの依頼は、事前に直接バンド・アーティスト・プロモーターに連絡を取るように伝えておく。
- ・ 小規模のライブの場合は、依頼をそのまま信用するのが良いでしょう。でも、付添い人が必要な理由について手短かに教えてもらうことは失礼ではありません(ただし個人的・医療的な詳細を聞く必要はありません)。
- ・ 付添い人用チケットを依頼できることを前もって知らせておく。

ギグの取り組み #3



字幕サービス

字幕サービスとは？

バンド名、曲名や歌詞を演奏中にモニターに映し出すこと。

なぜ必要なのか？

聴覚障害がある人もライブが楽しめるようになります。さらに会場にいる他の観客にとってもライブ体験に新しい要素が加わることになります。

用意するもの

- ・ ノートパソコン
- ・ スライドショー用のソフト
- ・ テレビモニター
- ・ 参加バンドから入手したセットリスト(曲名リスト)と歌詞

実現させるには

- ・ 参加する全てのバンドに字幕を出すことを伝える。
- ・ バンドに決められた順番で歌詞スライドを作成してもらう。
- ・ バンド名と曲名のスライドも追加して、バンドが希望するイメージや写真を載せる。
- ・ 全てのバンドのスライドを合わせてマスター・スライドを作る。
- ・ プロモーターが企画する他のイベントの宣伝スライドも追加する。これはバンドとバンドの合間に表示されるようにしても良い。
- ・ ステージ上にテレビモニターを設置し、ノートパソコンと繋ぐ。
- ・ 演奏中は誰かが手動でクリックしながらスライドを進めるよう手配する。
- ・ ライブには字幕サービスがあることを前もって宣伝しておく！

ギグの取り組み #4



静かな部屋 (QUIET SPACE)

静かな部屋とは？

ライブが行なわれているステージから離れていて、音や人混みからしばらく離れた人が休憩できる場所のこと。

なぜ必要なのか？

ライブの会場に「静かな部屋」を用意することが可能であれば、学習障害、自閉症、不安障害がある人などがストレスを感じてしまった時に、そこで少し休むことができるので、ライブを楽しめるようになります。

用意するもの

- ・ ステージとは離れた別の部屋（できるだけ静かな方が良いが、個室さえ用意できればそれでも構わない）。
- ・ 部屋の用途についての説明。
- ・ 座れる場所・椅子など。できるだけ柔らかい方が良い。
- ・ オプションとして、さらにリラックス感を高める効果があるもの。例えば、豆電球、ムードライト、飲料水、漫画・雑誌、紙と鉛筆、本、ストレス解消玩具など。

実現させるには

- ・ 会場に適切な部屋があるかどうか聞いてみる。
- ・ 部屋がある場合は、観客が座ってくつろいで休息できるような部屋にする。
- ・ 開場と同時にその部屋が使えるようにする。
- ・ 「静かな部屋」があることを前もって宣伝しておく！

参考になる組織

2017年3月に私たちは「イン・サイト・ウィークエンド(In-Sight Weekend)」という週末イベントを、Constant Fluxという組織とDIY Space for Londonという会場との共催で企画・実施しました。PRS財団(PRS Foundation)とアーツカウンシル・イングランド(Arts Council England)から資金援助を得て行われたこのイベントでは、障害者アーティストによるトークや自己流に工夫したバリアフリーに関するワークショップが行われ、そこで実際に出されたアイデアを使ったギグを実践しました。その結果生まれたのがこのガイドブックです！



PRS
Foundation



Supported using public funding by
**ARTS COUNCIL
ENGLAND**



DIY Space for London

「イン・サイト・ウィークエンド」を開催したロンドンの会場。創造力とコラボレーションを利用すれば、費用をかけずにバリアフリー化を進めることが可能なことを実証した素晴らしい会場です。

🖱️ www.diyspaceforlondon.org

CONSTANT



F L U X

Constant Flux

「イン・サイト・ウィークエンド」の共催者。アーティストや会場とパートナーシップを組みながら、イギリス国内各地でインクルーシブな(誰でも参加できる)ツアーを成功させてきた組織です。

🖱️ www.constantflux.co.uk

実践ギグで演奏を行った 4組の偉大な英国のバンド

ザ・フィッシュ・ポリス The Fish Police

🖱️ www.thefishpolice.com

ウルフ Woolf

🖱️ www.woolf.bandcamp.com

リベンジ・オブ・カルキュロン

Revenge of Calculon

🖱️ www.revengeofcalculon.com

ザ・オークワード・サイレンシズ

The Awkward Silences


🖱️ www.theawkwardsilences.com

終わりに

このガイドブックを手にとっていただきありがとうございます。皆さんにも、ろう者や障害者の方々にもライブ音楽を楽しんでいただけるようにするための私たちのキャンペーンに、賛同していただけることを願っています。

アーティスト、バンド、あるいはプロモーターの皆さん。物事を良い方向へ変えていく力は皆さんの手中にあるのです。ぜひ改善に向けてこのガイドブックを活用していただければ嬉しく思います。

このガイドブックが役に立ったと思ったら、ぜひツイッター経由で知らせて下さい。

 [#diyaccessguide](#) をつけて [@attitudetweets](#) へ。

また、他のバンドやプロモーターの方々とも是非このガイドブックをシェアして下さい。

そしてこのガイドブックにあるヒントやアイデアを使ってライブやツアーを実行したら、私たちにも知らせてね！

さらに、インクルーシブな(誰でも参加できる)ライブをいくつか行ったら、バンドでもプロモーターでも自分のウェブサイトに、バリアフリー宣言を掲載することを検討してみてください。こちらのリンクから参考になる例をご覧ください(英文)。

 <http://theawkwardsilences.com/accessibility>

では皆さん、がんばって！
グッドラック！

ホームページ・SNS

ウェブ : www.attitudeiseverything.org.uk

Twitter : @attitudetweets

Instagram : @attitudeiseverythinghq


Facebook : /attitudeiseverything

連絡先

メール : info@attitudeiseverything.org.uk

電話 : 44 020 7383 7979

デザイン : Could Be Good -

 www.couldbegood.co.uk

このガイドブックはPRS財団とアーツカウンシル・イングランドからの資金によって作成されました。



PRS
Foundation



Supported using public funding by

**ARTS COUNCIL
ENGLAND**